

七月十九日  
晴  
バサカオ  
最高三三〇  
最低二二五

二昨今熱發者續出スル為、ナガヒリ衛生隊村山軍医  
ノ來診ヲ受ク

二十五時ヨリ、ナガヒ歩兵團司令部ニ、下士官以上ニ對シ  
渡辺參謀長ノ訓示アルニ付、本職以下五名十二時三十分  
バサカオ發、ナガヒニ至ル

突刻ヨリ歩兵團長閣下並聯隊長臨席下ニ大要座  
如キ訓示アリ

左 記

一 比島作戰ニ敗落後長期戦ニ對處スヘキ我等ノ覺  
悟

二 与領治域ノ治安確立

一 比島人ノ風俗習慣ヲ尊重スルコト

二 性的問題ノ根絶(強姦六隊中ニハ死刑)

三 金錢不足ニ起因スル不正行為ノ取締

陣中日誌用紙

ニ軍紀ヲ確立シ土民ニ尊敬心ヲ起サシム

ホ警戒心ノ旺盛

結 論

皇軍トシテ取ザル現狀ヲ維持シ以テ次期作戰ニ

萬遺憾ナキ準備ヲ整フニアリ

三右訓示後本職以下十七時三十分歸隊ス

四日夕点時時約一時間中隊全員ヲ集合セシメ參謀長

訓示ニ基キ諸注意ヲ加ヘ訓話ヲナス

五本日ラカイ警備隊ハスハハ山地ニ米人將校棲息シテ

リトノ情報ヲ入手シ零時三十分伊藤少尉ノ指揮スルニ

テ分隊ヲ以テ、スハハ山地河谷ノ一軒家ヲ急襲米人

ニ名ヲ捕虜トシ其他若干ノ函獲品ヲ得テ十八時返

還セリト

其ノ行動ノ概要(別冊添付)第卅一隊陣中日記

## 一、所見

本月ニ於ケル判決（七月）

- 一、一般ニ「バサカオ」セシテモルヤンド「パンフロク」町村界山地ニシテ「カランタト」軍アルモノ、如ク住民ハ彼等ヲ恐レ山中ニ逃避シテ「特ニヤ子供」影少ク村内約氣ニシ
  - 二、所々ニ不逞不才アリト申送ラテ受ケタルモ大ナル変化ヲ認メス然レ共軍軍「バサカオ」ニ分比スルト數ヶ月ニ及クニ未ク前村長並副村長ハ言ヲ左右ニシ或ハ行方不明ニテ歸村シテラサルハ最モ不可ナリ
  - 三、之ヲ要スルニ「イリガン」其ニ比シ裁定ノ初期ニ於テ小兵力ヲ配置シ討伐其他不徹底ナリシニ起因スルモノト思慮ス之即テ其ノ當初ニ於ケル最善ノ宣撫ハ鶏頭ヲ断ツニキ刀ヲ以テスル徹底セル威力討伐ヲ海員施スルニ也ナラサルナリ
- 特ニ比島人ニ對シテハ口先ニ依ル宣撫ハ無効ニ近キモノト云フ

別紙第一

討伐行動ノ概要

- 一、討伐日時 昭和十七年十一月三日 (至一七、三〇)
- 二、討伐区域 東久米郡ルスカヤ「附近」一帯
- 三、使用兵力 白井少尉以下六十名

- 第一縱隊 白井少尉以下二十八名 (附一ヲ含ム)
- 第二縱隊 前川少尉以下二十二名
- 第三縱隊 大谷軍曹以下十名
- 外ニ巡查三 土民密偵四

四、行動概要 トドマテ以西六軒ノ成道上ニ於テ第一障害物並ニ

其ノ後方ニ敵約二十名ヲ發見ス

二部隊ハ要隘ヲ通り三縱隊ニ分レテ包圍攻撃ヲ進

退シモト「ルスカヤ」市ニ入ル

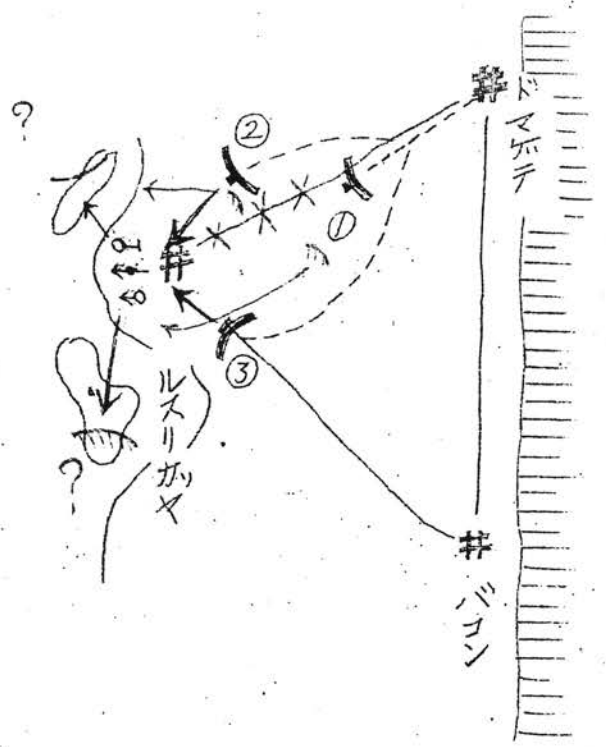
三、敵ハ當所以西山地ニ退却

四、ルスカヤ市ニ各縱隊包圍突入後ハ該町ヲ掃蕩シ莫残ス

五、敵性部落ニ付家屋全部 (約三十軒以上) 焼却

◎ 障害物ノ状況

「トドマテ」以西六軒ノ地点ヨリ自動車道路閉鎖  
 椰子水ノ倒壊十數本セメント土管集結箇所  
 ニテ所



六射斃彈 小銃ニ三五、榴彈二、附彈孔口

五 結 果 敵ノ俘虜五名刺殺廢分ス

我ニ損害ナシ

六 参考事項 (一) 討伐実施ノ原因

當州巡査部長「マルテネス」一日夜逃走ノ情報入り  
當夜有カナル斥候ヲ以テ偵察セシメタルニ効ナク

二日早朝ヨリ討伐ヲ実施ス

(二) 敵性部落「オスリカヤ」ノ現状

去ル十月三日第一回肅正討伐ノ際ハ當町長始

メ住民居住シ小學校ヲ開キ居リタルニ不拘其

後匪賊ノ出入甚タシク當該不良分子脅迫ノ

結果從來各家屋ニカ、ケタル日章旗ノ取掛

ニ其他抗日氣風顯著トナレリ

又上月一日巡査部長ハ乗用車ヲ以テ逃走シ

其ノ時「オスリカヤ」迄、自動車通行容易ナリ

シニモ不拘翌朝、我軍討伐時既に前記、如ク

障害物ヲ設置アリ、其ニ伴フ敵ノ監視兵等

疑ヒ難キ敵對行動アリ

其ノ後「オスリカヤ」西側山地ニ逃走ノ敵ハ

「バリンピ」山地ノ敵ト密ニ連絡ヲナシ米軍ニマ

放送ヲ信ジ飽迄ケリテ戰法ヲ以テ反抗スルモト

判断サル